

## ワークショップ ①

# 触れる、つくる、感じる 木育エンパワメント

— 木に触れる・つくる体験を通して —

松井勅尚 (岐阜県立森林文化アカデミー 教授)

雲山晃成 (美濃保育園 園長)

野倉照子 (下牧保育園 園長)



「木育」とは、すべての人が木と触れ合い、木に学び、木と生きる取り組みであり、人と木や森とのかかわりを主体的に考える、豊かな心を育むことを目指した教育活動です。

日本はフィンランド、スウェーデンと並び世界有数の森林国であり、「木の文化の国」と言われています。私たちは身近にある木を生かし、家や暮らしの道具をつくり、生活してきました。その蓄積を「木の文化」と呼ぶのでしょうか。

私たち日本人は、物質的なだけでなく、精神的にも、木(樹)に支えられ、時に励まされ、まさに「木と生きる」生活をしてきたのではないのでしょうか。

しかし、昨今の生活環境は、如何でしょう。子どもを健やかに育むためのおもちゃの素材は化石資源であるプラスチック等が主流を占めているのではないのでしょうか？ また、皆さんのまわりの床や壁、机や椅子、食器等は何でできていますか？

環境への負荷が少ない生活スタイルを受け入れ、新しい価値観を創成することは、人間のみならず、地球をエンパワメントするために欠かせない事実でありながら、他の様々な価値観により進まない現実があるように思います。

平成 22 年度から、岐阜県美濃市内の 2 園にて、林野庁補助事業「就学前児童とその保護者に対する木育カリキュラム開発及び効果測定」の研究が進行中です。これは、年少親子に対して木育を取り入れたプログラムを実施することにより、どのように育まれるのか？

同一親子を 3 年間継続して効果測定する研究です。

本ワークショップでは、木育を保育に取り入れた 2 園での進捗報告を、実際に使った教材やサンプル等も

展示し、触れて感じていただきます。また、木でつくる体験を通して、どのような視点を獲得できるか？エンパワメントにつながるか？ 皆さんと場を共有したいと考えます。

### —プロフィール—

松井勅尚 (まつい・ときなり)

岐阜県立森林文化アカデミー教授。中高一貫教育の美術教諭として 8 年間勤務の後、2 年間の木工徒弟制度体験、名古屋造形芸術短期大学非常勤講師等を経て、2001 年より現職。家具・クラフト制作～彫刻制作～空間企画まで取り組み、人間の想いが生み出すモノについて、その必然性とながりを研究。不登校・障害者等マイノリティーへの自立支援、市町村の生涯学習支援、小中学校等のものづくり教育支援などを行ってきたほか、幼稚園、保育園、美術科・技術家庭科・生活科・図画工作等の教員研修も多数。出産前夫婦に対する木育講座『ファーストスプーンづくり』プログラム開発。美濃市ウッドスタート事業支援。0～2 歳児に対する親子木育教室と子育て支援の場づくりを模索中。

雲山晃成 (くもやま・こうせい)

社会福祉法人愛育会 美濃保育園園長。平成 24 年度より現職。『子ども達の無限の可能性を信じ、キラキラ輝く豊かな子どもを育てよう』を合言葉に、昭和 63 年より続いている表現活動を保育の軸に置き活動している。平成 22 年度より林野庁補助事業「就学前親子を対象とした木育カリキュラム開発」モデル園になり、保育の中に木育を取り入れ、子どもたちだけでなく保護者、祖父母、地域の人たちを取り込みながら木育活動を行う。平成 24 年 11 月上旬に、木育を理念に設計された遊戯室と育児支援棟が完成。

野倉照子 (のくら・てるこ)

社会福祉法人博愛福祉会 下牧保育園園長。岐阜県美濃市の北部に位置する下牧保育園はまさに「山紫水明」の恵まれた自然に囲まれている。子ども自身の持つ、生きる力と子ども同士の育ちあう力を信じ、豊かな自然と創造性あふれる環境の中で夢のある子どもを育てることを理念に、和太鼓を中心とした音楽活動と広い園庭での異年齢児の触れあいを大切に保育を行っている。また、平成 22 年度より林野庁補助事業「就学前親子を対象とした木育カリキュラム開発」モデル園になり、保育の中に木育を取り入れ、子どもたちだけではなく保護者、祖父母、地域の人たちを取り込みながら木育活動を行う。